

大草谷津田いきものの里 自然観察ガイド

「温暖化のシンボル？ナガサキアゲハはいるかな」

太田慶子（千葉市）

日 時：2009 年 9 月 20 日（日）10：30～12：30 天候：晴れ

ナガサキアゲハのオス(表)

参加者：26 名（大人 13 名 子供 13 名）

担当指導員：太田慶子 弦巻滋子

とにかくスカッとした秋晴れの好天で、開始時間を待っている間にもナガサキアゲハのオスが林縁を何度も通過しました。始まると同時に、「もうナガサキアゲハが飛んでいるのを見たので、今日はこれで終わってもいいですね」と言ってしまうほどでした。



今や、＜黒いアゲハ→ナガサキアゲハ＞と思ってもいいくらいナガサキアゲハは増えています。「いわゆる黒いアゲハには尾状突起があるものが多く、大型の黒いアゲハがナガサキかどうかを見分けるポイントは尾状突起がないことです！」と話しました。その尾状突起がない真っ黒なオスが、話している最中にも次から次へと飛んでいくので、参加者の方々にも確認ができたようです。

黒いアゲハには同じ道を移動するという習性のあるものが多く、ナガサキもやはりこの〈蝶道〉を持つので、同じ林縁で何度も見られるのです。また、オスはいてもメスがいらないのは、卵を産むミカン類の木はこの下の畑にあるけれど、大草の谷津田には植えてないので、オスしか見られないことなども説明しました。

ナガサキアゲハは、かつては西日本にしか見られなかったチョウです。それが千葉県では 2001 年ごろから、また千葉市では 2003 年ごろから少しずつ確認されるようになり、今や夏にいるふつうのチョウになっています。それは確かに〈温暖化〉のためと思われますが、庭などに幼虫の食樹であるミカン類の木々が植えられるためでもあります。ナガサキと同様に、かつては西日本にしか見られなかったツマグロヒョウモンが、都心の住宅地で最もふつうのチョウになっているのは、このチョウの好きな食草が栽培種のスミレであることと大きく関係しています。けれど、そうは言ってもツマグロヒョウモンは幼虫越冬するわけですから、幼虫が冬越しできるほど都心は暖かくなっているということを証明しているともいえます。

そんなことを話していても、子どもらは虫取りに夢中。「最後にオニヤンマを捕まえたのが一番！」というのが男の子の感想でした。大人の方々からは、「ナガサキアゲハの存在を知らなかったのが勉強になった」、「昔見たチョウと違うのが飛んでいるので気になっていたが、それがナガサキアゲハだとわかってすっきりした」、という感想に加え、「初めて来て子どもらが本当に楽しそうにしているのでよかった」というお母さん、「こうした自然体験は学校の勉強以上に大切では…」とおっしゃるお父さんもいらっしゃいました。